

「木造化推進と新たな構造部材」2015/第1回

平成27年7月18日(土) 高岡市能町の南陽デザインスタジオ高岡にて「木造化推進と新たな構造部材」2015 セミナーの第1回目が開催されました。参加者は19名でした。講師は(株)アルファフォーラムの小林社長で、木材利用システム研究会(会長:東京大学/井上准教授)の常任理事です。今回のセミナーは主に「木の利用法」ということで、先月のレポートネットでもご紹介されているような森林・林業の実情を、日本と外国



国での比較ということから始まります。比較対象となったのは欧州のオーストリア。日本と同じように傾斜山林の多い国ですが、驚いたのは①生産性の高さ②人材教育・育成のプログラム③バイオマス熱供給事業の普及です。

日本でも使われているハーベスタやグラブブルなどの機械は当たり前。ただし1立米あたりの伐採+加工が0.5時間以内という圧倒的な生産性の高さ、14歳から木材マイスターへの教育システムが出来上がっている点、熱供給施設は全国1,200か所以上で小規模の供給システムが多いという点など、建築物個別の設備ばかりを考えてきた私たちには初耳の内容でした。

後半はバイオマス熱供給事業についての説明で、福井県の「あわら三国もりもりバイオマス」の例をご紹介いただきました。

Webページもあります。 <http://morimori-biomass.jp/> 山主+森林組合+エネルギー供給業+使用者(温泉旅館等)が川上+川下一体となって進めておられる事業は山の資源を徹底して使いきることが結果として低炭素社会やCo2の削減(カーボンオフセット)になるという、目からウロコのお話でした。

今回のセミナーは、建築に関わる我々に大きな思考の枠の転換が必要だという事を迫っている! などと書くと大げさですが、実際は

建築物単体という世界から地域や循環型社会を形成するという大きな枠で物事を見ることが次の時代のビジネスチャンスをつかむということに気付かされました。

私たち建築士会の綱領である「われわれ建築士は社会の発展のための最新の指導者たるべし」を忘れてはいけませんね。

成功のキーワード



セミナー参加者の様子

- 木 = 製材品という狭義の木材利用しか考えていなかったが、実は木材にはもっと利用価値があることを再認識した。(Y)
- 現行の個別(重油/灯油)ボイラー+バイオマス地域熱供給でまかなう事業というのはとてもユニーク。(N)



木材のカスケード利用

木材は製材品=建築素材だけではなく、紙やエネルギー等様々な利用できます。



会場の様子

材料としての木材から、利用価値を追及する深掘り・・・難しい? 中央最前列が中野会長

- ・ 木造住宅 ↓
- ・ 非住宅木造建築物 ↑
- ・ ゼロエネルギー、低炭素建築物の提案
- ・ 省エネルギー基準法の義務化(2020年までに)
- ・ = 設備も含めた提案力が求められる
- ・ ∴ 木質バイオマスエネルギー利用を含め

ビジネスチャンスは大きい

新たなビジネスチャンス?

設備から考える建築物。太陽光発電に次ぐエネルギー供給事業者が登場するかも・・・

リポーターの感想(タイトル)

建築物に関わる我々が考える木材というものは構造的な部品や装飾的な部品という意味が一般的だと思いますが、環境への貢献と循環型社会の創造という視点で山の資源をどこまで使い切るか、そのための計画を作ることが建築士の新たな役割ではないかという気さえました。